

木もれ陽

文責 平川 千秋

“自然災害”に備える！

昨年9月9日未明、千葉県に台風15号が襲来しました。我が家では屋根瓦が飛ばされ、押し入れには雨が吹き込んで布団が濡れ、丸5日間停電が続きました。勤務していた学校も3日間臨時休校となり、水浸しになった教室、割れた窓ガラス、トタンの剥がれた体育倉庫、折れた樹木の後始末に多くの時間を費やしました。金曜日の夜、帰宅した際に車庫の電灯がぱっとつき、信号機が点灯した瞬間の感激は今も忘れられません。



6日後、改めて日中に近所を歩いてみると、道路には杉の木が横たわって道を塞いでおり、山の木々は折れ曲がり、民家の屋根はブルーシートで覆われていて、暴風のすさまじさを目の当たりにしました。自衛隊による入浴施設が特設された様子も初めて目にし、スイッチを押せば電気が付く、蛇口をひねれば水が出る、お湯が沸かせる、お風呂に入れる、洗濯機が回せる等、いつも当たり前と思っていたことが当たり前に行えることのありがたさを感じました。

あれから1年あまり、今年は台風9号と10号が続けて九州地方を通過し、“過去に例を見ない甚大な被害が予想される”、“100年に一度の規模の台風”等、多くの情報が出され、事前避難した人が多かったと報道されました。それでもやはり人的物的被害は出て、自然災害の恐ろしさを再び見せつけられました。

日本が地球上のこの位置にある以上、台風の通り道になるのは避けられません。大雨、大雪等も含め、自然災害の発生は回避できないのが現状です。しかし、最悪を想定して備えることはできます。できうる限りの備えをすれば、被害は最小限で済むはず。たとえ空振りになったとしても、それで被害がなければ良かったと考えるべきでしょう。

“備えあれば憂いなし”。いつも最悪を想定して準備し、何よりもまず命を守ることを優先する、そうした危機管理能力を身につけていきたいと思っています。

校内探検②

前号に引き続き、校内を紹介いたします。1階の廊下から昇降口付近の様子です。



2学期から使用再開した冷水機。さくら学級の廊下の掲示物は「朝顔」です。廊下には季節のお花。3年生の掲示物は「2学期の抱負・体育祭の反省」です。廊下の天井には「KEEP LEFT!」昇降口に生徒会委員会の目標。保健室の反対側の壁には「防災・ハザードマップ」があります。